

申入書

八月三十日付けで公開された、外交文書で、一九五八年にトルーマン元大統領が「原爆投下は必要だった」と発言したことに対して、当時の日本政府は、元GHQ准将から対処勧告を受けていたにもかかわらず、これを黙殺し、元大統領発言を黙認していたことが明らかにされました。

ことの経過のなかでは、我が広島市議会が深くかかわっており、また、今日でも久間元防衛相の「しようがない」発言など、原爆投下に対する日本政府の認識があらためて問われているなかで、広島市議会としても単なる過去の出来事として見過ごすことのできない重大な問題だと認識します。

よって、市議会の意思を代表する議長として、事の経過を全議員に明らかにされるとともに、議会としての意思を内外に表明されるよう求めます。

二〇〇七年八月三十日

日本共産党広島市会議員団

団長 皆川 恵史

広島市議会議長 藤田博之 様